

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第9回フォーラム検討会議
議事録

日時：平成25年2月19日（火）15：00～18：00

場所：TKP スター貸会議室根津

出席者：13名（順不同・敬称略）

木村（東大）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、
大石（PONPO）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、久保（PONPO）、
渋谷（元気ネット）、竹中（東大）、丸山（NV研）、諸葛（東大）、
土田（関西大）（社会調査グループ）

配布資料

- F9-0. 議事次第
- F9-1. 第8回フォーラム検討会議議事録（案）
- F9-2. 第8回フォーラム検討会議逐語録
- F9-3. フォーラム参加申込書（首都圏住民）
- F9-4. フォーラム参加申込書（原子力学会員）
- F9-5. フォーラム参加申込書の回答（首都圏住民）
- F9-6. フォーラム参加申込書の回答（原子力学会員）
- F9-7. 社会調査結果（フォーラム参加申込書該当部分のみ）
- F9-8. コミュニケーション・マニュアル
- F9-9. 平成24年度報告書案（一部）

議題

- 0. 議事録確認
- 1. フォーラム参加者確定
- 2. 「コミュニケーション・マニュアル」の検討
- 3. その他

0. 議事録確認（配布資料 F9-1、F9-2）

木村氏より、資料 F9-1 に基づいて、前回の議論の確認がなされた。

1. フォーラム参加者確定（配布資料 F9-3～F9-7）

社会調査グループの土田氏より、配布資料 F9-5、F9-6 に基づき、フォーラムへの参加申込者の情報が説明された。

申込書の回答を基に、参加者の決定が行なわれた。（なお、個人情報に抵触するおそれがあるので、議論の詳細の記録は控える。）

【全般に対する意見】

- ・ 今年度は、市民の申し込みが規定数に達しなかった。
→首都圏住民の調査数は 500 で、そもそも母数が少ないのかもしれない。
- ・ 来年度は今年度の成果が公開されるので、申込数が増えるかもしれない。
- ・ インターネット調査もひとつの方法ではないか。
- ・ 本調査の回答と申込書の回答は異なる可能性がある。申込書は記名式なので、時勢を捉えて「反対」と答えるかもしれない。

【首都圏住民】

申し込みは 8 名であった。男性 6 名、女性 2 名であった。

8 名全員を採用し 2 名を追加するか、8 名全員ではなく、層が分散するように採用し（意見が重複する人は落とし）、必要数を追加するか、が議論となったが、層のばらつきが重視され、後者の意見が採られた。

まず、男性 5 名、女性 5 名にすることが決定された。

申込者の回答は、Q5（賛否）は大多数が反対。Q6（不安）は全員が不安を感じている。Q7（経済発展）に多少のばらつきがみられる。Q5 の結果は、本調査の結果と偏りが生じている（本調査では、20%強が賛成側）。

男女、年齢、Q5（賛否）、Q7（経済発展）が分散するように選別を行なった結果、8 名の参加者のうち 6 名（男性 4 名、女性 2 名）を採用し、4 名（男性 1 名、女性 3 名）を追加することとなった。

追加の条件

- ・ 男性は 20 代、学生。Q5（賛否）はどちらでもよい。
- ・ 女性のうち 1 人は 20 代学生が望ましい。
- ・ 女性 3 人は、Q5（賛否）のバランスがいいこと。反対はすでにいるので、中庸か賛成。

追加するメンバーは、運営側の顔見知りでないほうが良いという意見に基づき、知り合いに知り合いを紹介してもらうことになった。メール等で趣旨を説明し、協力の同意が得

られた場合、フォーラム申込書および返信用封筒を郵送し、PONPO宛てに返信してもらうことになった。不足は4名だが、多めに募集をかけ、他の参加者とのバランスを見て、残り4名を決定することになった。

(参加決定者ID：15、20、23、24、26、28)

【原子力学会員】

申し込みは25名であった。そのうち、住所氏名なしの無効申し込みが1名、本プロジェクト関係者が1名で、有効申込数は23名であった。

原子力学会員の回答は、Q6（賛否）、Q8（経済発展）、Q9（省エネ）、Q10（電気料金）に大きな差異は見られなかった。Q7（不安）には若干のばらつきがあった。Q7と年齢、性別、経歴、専門分野がなるべく均等になるように、23名の中から10名を決定した。

(参加決定者ID：2、3、4、6、8、17、18、21、22、30)

2. 「コミュニケーション・マニュアル」の検討（配布資料F9-8）

前回までの議論を踏まえ、木村氏、竹中氏を中心に、コミュニケーション・マニュアルの内容が再検討されていた。特に、後半のファシリテーションルールに関して、修正が行われていた。ファシリテーションルールに関して、それぞれが目を通した後、活発な議論が展開された。

- ・ 誤字脱字等の指摘があったが、その場で修正された。
- ・ 9ページ「②話している人が、聞いてくれている、と感じられるようにする」のチェック項目が「話している人が、聞いてくれている、と感じるようにしましょう。」であるが、同じことを言っているだけで、追加の情報がないので違和感がある。
→「話している人が、聞いてくれている、と感じるようにしましょう。」のチェック項目を外し、その下のサブチェック項目（矢印）をすべてチェック項目（四角）に格上げした。
- ・ 9ページ「ときには、発言に対して、感謝の言葉を述べましょう。」の例が「その視点は面白いですね」だが、それは「感謝」とはニュアンスが異なるだろう。
→「ときには、発言に対して、興味を持っていることを伝えましょう」に修正。
- ・ 「サブファシリテータに随時相談できる」ということを、何らかの手段で参加者に伝えるべき。
- ・ 「ファシリテーションは実践をすることで身につけていく」「失敗をおそれず挑戦してほしい」なども伝えるべき。
→ファシリテーションルールの末尾に書きくわえる。また、直接参加者に伝える。

→今回のフォーラムでは、ファシリテータ役は、いずれ全員に経験してもらう予定。
ファシリテータ役がサブファシリテータと相談するときには、むしろ、全員に聞こえるように相談してもらったほうが、他の人のためにもなる。

- ・ 11 ページの「掘り下げをしすぎるとファシリテータが話題を誘導しているように感じられることがある」というのはどういう意味か。
→特定の意見だけ掘り下げると、そう見えるという意味。全員に対し、平等に掘り下げができれば問題がないが、それはなかなか難しい。

以上の議論を踏まえ、木村氏、竹中氏が中心となって再検討を行ない、内容を確定させることになった。

また、実際にフォーラム内でマニュアルを用いた結果も随時取り入れていく、実践例を追加していく方針が確認された。

さらに、「講義→グループワークの順番ではなく、グループワーク→講義の順番のほうが、ファシリテーションについて理解が進むのではないか」という意見を踏まえ、第1回、第2回フォーラムのプログラムが再検討された。

【第1回】

(コミュニケーション・マニュアルは事前に参加者に郵送し、一読してもらう)

まず、コミュニケーションルールについて、簡単に講義を行なう。

グループワークを行なう。講義時間が短縮されるので、1回あたりの時間を延ばす。(模擬フォーラムで、時間の余裕がなかったことを受けて)

【第2回】

冒頭にファシリテーションルールについての講義を行なう。(一度実践しているのので、理解しやすいと思われる)

3. その他

資料 F9-7 の詳細な説明、議論は、翌日の第3回業務推進全体会議で行なうことになった。

資料 F9-9 は今年度の報告書案であるが、時間の都合で、検討はメールなどで行なうことになった。

以上